

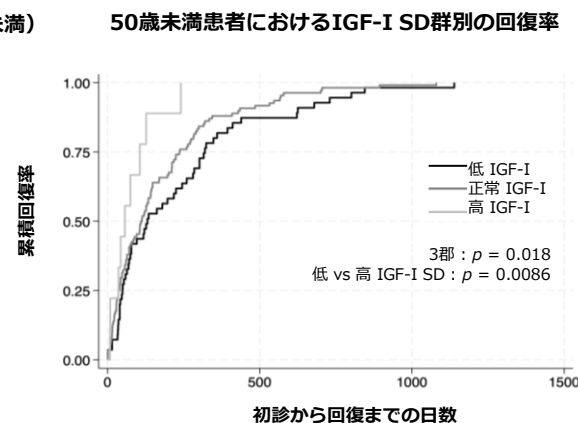
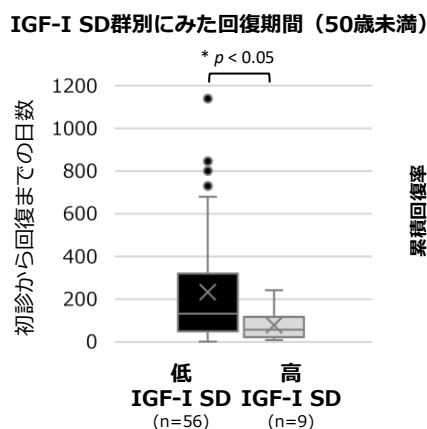
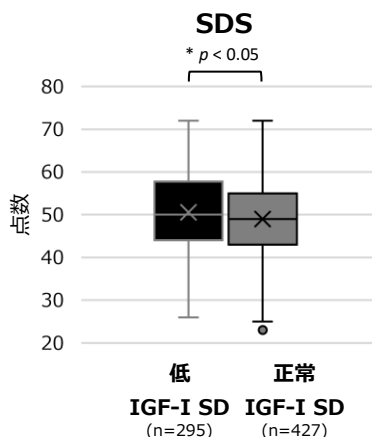
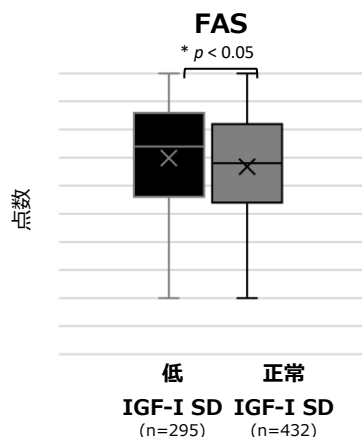
## コロナ後遺症における血中IGF-I値と疲労および予後との関連

**研究の背景：** コロナ後遺症では、強い倦怠感や気分の落ち込み、集中力低下などが長く続く患者さんがいます。しかし、症状の重症度や回復経過を客観的に評価できる指標（バイオマーカー）は十分に確立されていません。**IGF-I（インスリン様成長因子-I）**は、成長ホルモンに関連する物質で、筋肉・代謝・脳機能の維持に関わることが知られています。本研究では、**コロナ後遺症患者におけるIGF-I値と症状・回復経過との関連**を検討しました。

**対象・方法：** 2022年1月～2025年9月に当院コロナ・アフターケア外来を受診したコロナ後遺症患者811人（中央値42歳、女性52.5%）を対象に、血中IGF-I値を測定しました。IGF-I値を年齢・性別で補正した**IGF-I SD値**に基づき、低値群・正常群・高値群に分類し、疲労感（FAS）、抑うつ症状（SDS）、回復までの期間との関連を解析しました。

### コロナ後遺症患者に認められた特徴：

- **IGF-I低値群**では、**疲労感（FAS）**および**抑うつ症状（SDS）**が有意に高値でした。
- **IGF-I低値**は、年齢・性別・BMIなどを補正した解析でも、**疲労・抑うつ症状と独立して関連**していました。
- **IGF-I低値群**では、**回復までに長期間を要する傾向**がみられ、特に**50歳未満**で顕著でした。



**血中IGF-I低値が、コロナ後遺症の疲労・抑うつ・回復遅延を客観的に評価する1つの指標となる可能性が示唆されました**